

も

く

じ

伝統工芸ってなに？

その地いきに昔から伝わる手作りのぎじゅつと、
昔ながらの原料を使って作られる工芸品です。

そのほとんどは、ふだんの生活で使われる物です。

伝統工芸の みりよくを伝えよう

書くためのじゅんぴ……………4
説明する文章の書き方……………6
リーフレットを作ろう……………6

北海道……………8
二風谷アットウシ……………8

福島県……………10
奥会津編み組細工……………10

群馬県……………12
桐生織……………12

山梨県……………14
甲州印伝……………14

新潟県……………16
小千谷ちぢみ……………16

富山県……………18
越中福岡のすげがさ……………18

石川県……………20
加賀友ぜん……………20

福井県……………22
若狭めのう細工……………22

愛知県……………24
尾張七宝……………24

三重県……………26
伊賀くみひも……………26

滋賀県……………28
近江上布……………28



1巻に
登場する
都道府県

この本について

この本は、みなさんが学
校などで作文を書くときの
ヒントにもらうために
作りました。たくさんの方
文を読むことで、文章の組
み立て方や、表現の工夫を
身につけることができます。
1〜3巻を通して、全部
で47都道府県の伝統工芸を
しょうかいしています。社
会科で、身近な地いきにつ
いて調べるときにも、この
本を使うとよいでしょう。
なお、本のはじめには文
章の書き方、終わりには調
べ方をのせています。説明
する文章を書くときに役
立てましょう。

伝統工芸調査隊！
百科事典・インターネットで
調べてみよう
百科事典での調べ方……………40
インターネットでの調べ方……………41
さくいん……………42

京都府……………30
西陣織……………30
徳島県……………32
阿波正藍しじら織……………32
熊本県……………34
肥後象がん……………34
鹿児島県……………36
本場大島つむぎ……………36
沖縄県……………38
琉球びんがた……………38

伝統工芸の

みりよくを伝えよう

伝統工芸を調べて、そのみりよくについて説明する文章を書きましょう。また、リーフレットを作って、友だちに伝えましょう。

書くためのじゅんび

どんな伝統工芸があるのかな

1 しょうかいしたい伝統工芸を決める



身近な地いにある伝統工芸を調べましょう。本や、地いきで作っているパンフレット、インターネットなどで調べることができます。興味をもったものに決めるとよいでしょう。

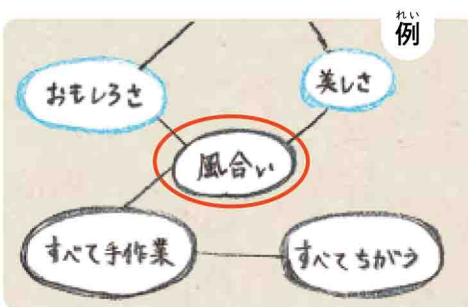
3 みりよくを選んでよりくわしく調べる

書き出したみりよくから、しょうかいするものを二つほど選びます。それらについてさらにくわしく調べ、わかったことをマップに書き足しましょう。

どうしてじょうぶなのかな



例では「じょうぶ」と「風合い」を選びました。さらに調べたことを、マップに書き足していきます。

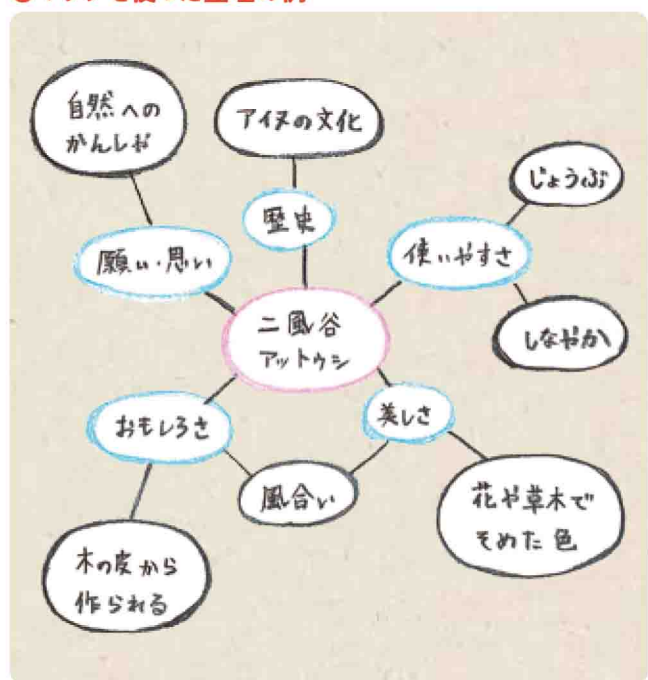


2 その伝統工芸を調べてみりよくを書き出す

みりよくには大きく分けて「使いやすさ」「美しさ」「おもしろさ」「願い・思い」「歴史」があります。調べてわかったことを、マップを使って、書き出しながら整理しましょう。

調べ方は
40 ~ 41 ページへ

●マップを使った整理の例



5つのみりよくに当てはまるものを書き出し、線で結びます。最初のみりよくは5つでなくても、2つ以上あれば十分です。

4 文章の組み立てを考える

左の例のように、文章を「はじめ」「中」「終わり」の三つに分けて組み立てます。みりよくの説明は「中」で書きます。みりよくをわかりやすく伝えるために、どんな理由や例をあげたらよいかを考えましょう。

例

と取り上げる伝統工芸の説明

はじめ

二風谷アットウシの説明。
二風谷アットウシには二つのみりよくがある。

その伝統工芸のみりよくの説明

中

一つ目のみりよく「じょうぶ」について。
木の皮から作る糸を使う。
水に強く、切れにくい。
二つ目のみりよく「風合い」について。
手作業で織るため、一枚一枚ちがう。

そのほかの大事なことやまとめ

終わり

二風谷アットウシはすばらしい。
アイヌの文化が受けつがれている。

さあ、書いてみましょう！

調べ 2

色をつける作業。着物の形にかりぬいをした絹の白い生地、下絵をえがき、その線にそってのりをつける。のりとはなりどうしの色がまざらないための、かべの役目をしており、その内側に染料でいろいろな色をつけていく。



調べ 1

加賀友ゼんの着物。昔、石川県は「加賀百万石」と言われ、そのゆたかさでたくさん職人を育てた。



加賀友ゼン

手でえがかれた
美しい草花のもよう

No.

加賀友ゼンは、三百年以上も前から金沢で作られてきた染物です。宮崎友禅齋という人が、それまであった加賀お国染をもとに新しいもようを考え出し、ぎじゅつを發てんさせました。

加賀友ゼんのいちばんのみりよくは、草花や鳥が細かくえがかれた美しいもようです。着物を広げると、まるで一枚の絵を見ているようです。もようは、一枚一枚、ていねいにえがかれています。

色は、加賀五彩とよばれる、えんじ、黄土、藍、草、古代むらさきという、昔ながらの五つの色。きほんとして、この五色をまぜ合わせていろいろな色が作られています。

また、加賀友ゼんのもようには、虫に食われた葉っぱや花があります。あまりきれいとは言えないものまでも、自然のままに、えがいてあるのです。

このように、加賀友ゼんは美しくて、はなやかな染物です。けれどもそのいっぽうで、自然のすがたをえがいていることから、親しみのある染物でもあるのです。

興味を広げる主な伝統工芸

●京友ゼン(京都府) ●名古屋友ゼン(愛知県)